

---

# 終焉の異端者

ガンダム

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

終焉の異端者

### 【Nコード】

N2447BA

### 【作者名】

ガンダム

### 【あらすじ】

少年は目を覚ますと、名前以外の記憶を失っていた。しかし命を助けてくれた少女のために、前に進む。その先に立ちふさがるものとは

## 第1話 少年と少女 物語は動き出す（前書き）

はじめまして、ガンダムという者です。と言っても、ガンダムの知識はあまりありません（笑）

エクシリア好きだったので、始めて見ました。処女作なので、期待する文章を書くことはできませんが、努力しますのでよろしくお願ひします。

## 第1話 少年と少女 物語は動き出す

「……何処だ」

それが俺の目覚めた時の最初の一言だった。

そこは俺の知らない森で、優しい風が俺を包んだ。……でも、どうしてだろう。なにやら大切なことを忘れている気がする。

まるで完成したパズルのピースが根こそぎとられたような感じがする。

多分、俺の名前は

「大丈夫……ですか？」

えらく気弱で小さな声が俺の耳に入った。

その声をした方を見ると、おどおどした金髪の少女と、その少女の寄り添うように、紫色のぬいぐるみみたいな物が浮いており、こちらを見つめていた。……俺のことを知ってるのか？

「……」

自分の体の外から、生暖かく赤黒い液体が体を伝っているのが

分かると同時に、体に激痛が襲いかかった。

「エリー、この人怪我してるよ」

「い、今、助けます！」

二人がこちらに近づいてくるのがわかった。しかし、痛み在所為で動くことすらできない。

本当になにがあっただ？　そう考えるも、何も思い出せない。

少女はそのまま俺の隣にしゃがむと、俺の傷を治癒してくれているのがわかった。

……俺は一体どうしてこのような状態になってるんだ。……くそ、思い出せない。

少女が治癒してくれているが、そう考えるのも限界になり、視界も暗くなってきた。

そしてそのまま俺は何も分からない状態のまま、意識を手放した。

エリーゼ start

突然のことだから、私なりの対応しかできなかった。

近くの森を歩いていると、木に寄りかかって倒れていたが、驚くべきところは、その人が血だらけで倒れていたのだ。

死亡確定まではいかなかったものの、外傷は思ったより酷かつ

た。

私はそれに気づくと、考えるより先に体が動いた。

「い、今、助けます！」

私はその人に近づくと即座に、精霊術で治療を始めた。自分で言うのもなんだが、それなりに精霊術の治療力は高い。

「も、もう少し我慢してください」

焦りながら話すも、治療の効果は効き始めたのか、傷が塞がりかけてきた。

幸いだったのか、見た目より傷はそこまで深くなかったようだ。全体的に治療させると、その人は落ち着いたのか否か、また眠り始めた。私もほっとする。

「エリーゼ、この人死んじゃったの!？」

現状を把握できていないのか困った顔で、私の小さい頃からの友達 テイポが口を開いた。

ぬいぐるみが喋ったなんてよく驚かれるが、私にとっては普通だ。だからこそ私は落ち着いてテイポに説明できた。

「大丈夫だよ、ティポ。今はねてるだけみたいだから」

大丈夫……だよね？

「良かったー、突然倒れていたからびっくりしたよー」

そう言えば、そうだ。何故この人は、こんな状態で倒れていたのだろう？

旅人なら納得できた。魔物に襲われたとか、危険な道を通ったとか、考え方はいくらでもある。

しかし、旅人はそうならないよう様々な準備をするものだ。薬とか、武器とか、食料とか。旅こそしたことはないものの、それぐらいなら理解できる。

けどこの人の周りに、その準備したものが、見当たらないのだ。他に理由があるかもしれないが、外見的に私と同じぐらいの年齢みたいだし、旅人には見えなかった。

だったら何故、倒れ込むまでの怪我を彼は負っていたのだろう。出会ってそうそう不吉な予感が頭をよぎる。

「エリーゼ？どうしたの？」

「ううん、なんでもないよ」

とりあえず、変に考えるのは止めよう。

とにかく、彼が目覚めますまで、待つことにした。

第1話 少年と少女 物語は動き出す（後書き）

どうでしたか？

感想やアドバイスをくださると嬉しいです。では、また次回会いましょう



## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n2447ba/>

---

終焉の異端者

2012年1月6日04時49分発行